

横田と三沢基地の空兵 航空機着陸拘束装置の年次認証試験を実施  
Yokota, Misawa Airmen conduct annual Aircraft Arresting System certification

October 15, 2024

By Yasuo Osakabe  
374th Airlift Wing Public Affairs

第374運用支援中隊飛行場管理部と第374施設中隊の発電部および消防署の空兵が10月7日、横田基地で航空機着陸拘束装置(AAS)の年次認証試験を完了した。

AASは、航空機の後部に取り付けられたアレステイング・フックを利用して、短距離で着陸する際に機体を安全に減速・停止させる装置である。

今回の年次認証では、三沢基地第14戦闘飛行隊のF-16ファイティング・ファルコンが、横田基地のバリア・アレステイング・キット12(BAK-12)の再認証試験を支援した。

「横田基地のBAK-12バリアケーブルが再認証されることで、非常時に戦闘機を受け入れる能力を維持できる」と第374運用支援中隊飛行場管理官ヘンソン・グリーン技能軍曹は述べた。

この認証試験は、航空機が通常の着陸ができない緊急時において、横田基地のAASの安定性と有効性を評価するものである。

「横田基地は、三沢基地や嘉手納基地、そして空母の主要な代替着陸地である。この認証によって、緊急時には周辺基地の地航空機を支援できるようになる」とグリーン技能軍曹は話す。

横田基地の飛行場を戦闘機が安全に使用できることを認証することで、この地域における運用上の制約を解消し、米海軍、米海兵隊、航空自衛隊の戦闘機を支援する能力を高めることができる。それにより横田基地の航空戦力の範囲がさらに広がる。

